

山の日企画

つくばさん



筑波山

にのぼろう! 2019

臨時

つくばちびっ子博士2019 スタンプラリー指定見学施設

筑波山 ビジターセンター

開設のお知らせ

開設期間

2019年8月7日(水曜日)~12日(休日・月曜日)
毎日10時から16時まで

会場

筑波山ケーブルカー 筑波山頂駅 2階



内容

- 筑波山の自然の紹介
(筑波山の動物・昆虫・植物・岩石等)
- 筑波山なんでも相談・筑波山ショートガイド
- いきものクイズラリー(プレゼントあり) など

筑波山登山に合わせて
是非お立ち寄りください
(入場は無料です)

主催 茨城県県民生活環境部自然環境課
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
協力 筑波山地域ジオパーク推進協議会

お問い合わせ先
茨城県生物多様性センター TEL 029-301-2940



筑波山と「生物多様性」

★筑波山の特徴★

茨城県を代表する山「筑波山」は、「西の富士，東の筑波」と言われ昔からその美しい姿が多くの人々の心をとらえてきました。自然豊かな筑波山は周辺地域とともに、昭和44年に「水郷筑波国定公園」に指定されました。山容は特徴的な双耳峰で、標高は女体山が877m、男体山が871mありますが、ケーブルカーやロープウェイで気軽に山頂へ行くことができ、年間200万人以上の方が訪れています。登山道には特徴的な巨石、奇岩が見られ、晴れた日には山頂から霞ヶ浦、東京都心部、日光連山なども望むことができます。

★筑波山の自然★

筑波山には、様々な動物や植物がいることでも知られており、山頂付近は国定公園の特別保護地区に指定されています。筑波山の山頂付近は、夏でも比較的冷涼で、希少なブナ林が見られるなど、特徴的で多様性に富んだ生物相が形成されています。近年、地球温暖化の影響が筑波山でも見られるようになり、ブナなどの植生にも変化が見られるようになってきました。茨城県では、平成24年3月に筑波山ブナ林保全指針を策定し、関係機関と協力するなどして、筑波山のブナ林の保全に努めています。

★生物多様性を守るということ★

私たちの住む地球には、1000万種を超えるといわれる多種多様な生き物が、様々な環境の中で生きています。このように様々な生物がそれぞれの環境で、お互いにつながりながら、バランスをとりあって生きている状態のことを「生物多様性」が豊かな状態といいます。筑波山はもちろん生物多様性が豊かな山ですが、私たちが普段生活している町や田畑、湿地、川、海などの環境も、それぞれに豊かな生き物の多様性を持っています。生物多様性が豊かであるほど、災害などの際に元に戻ろうとする力が大きくなり、また、わたしたち人間も自然からより多くの恩恵を受けることができるようになります。現在、地球規模で、温暖化や外来生物の侵入などによる生物多様性の危機が進行しています。希少な自然だけでなく、身の回りの生物多様性を守ることが、これからのわたしたちの生活を守ることに繋がっています。

「生物多様性」をおびやかす外来種

★外来種ってなに？★

人の活動によって、別の国や地域など、もともといた場所から移ってきて、野生に定着した生き物のことを外来種といいます。コンテナなどの荷物にまぎれこんで入って来たものや、ペットとして輸入されたものが逃げ出したり捨てられたりしたものなどがいます。

★どんな注意が必要なの？★

外来種が侵入すると、生態系が大きく変化して、元からいた生き物の生活の場がなくなったり、野菜や果物などの農作物が荒らされたりするなど、思わぬ被害が発生することがあります。その中でも、特に被害のおそれが大きい外来種を「特定外来生物」といい、飼育や、販売などが法律で禁止されています。

(特定外来生物の例：アライグマ、ブラックバス、アメリカナマズ、オオキンケイギク、ミズヒマワリなど)

★外来種を防ぐためにはどうすればいいの？★

外来種は、一度広がるがと駆除することがとても難しくなります。外来種が広がらないよう、わたしたち一人一人が、普段から、外来種被害予防三原則を守り、予防を心がけるようにしましょう。

アライグマ



オオキンケイギク



がいらいしゅひがいよぼうさんげんそく

外来種被害予防三原則

1 悪影響を及ぼす
おそれのある外来種を

いれない

2 ペットなど、飼っている
外来種を野外に

すてない

3 すでに野外にいる外来種を
他の地域に

ひろげない